

**地区名：大野地区**

**実施主体：大野地区各種団体連絡協議会**

## 1 基本データ

- 地区人口 13,420 人 (H31. 1. 1 現在)
- 世帯数 5,171 世帯
- 行政区数 73 行政区
- 面積 約 6.3 平方キロメートル
- 地区の沿革

大野地区は、大野盆地の北西部の平坦地に位置し、東は上庄地区、南は小山地区と上庄地区、西は乾側地区と小山地区、北は下庄地区に接し、政治・経済ともに大野市の中心である。

古代より中世初期にかけては、政治経済の中心は小山地区や乾側地区にあり、大野地区は荒涼とした原野に数村が所在していたと考えられている。

中世中期には、亥山城（現在の日吉神社付近）の周辺に小規模な城下町が形成されていたが、今から 400 年以上前、天正期に金森長近が大野城を築城し、新しく建設した城下町が、大野地区中心部の街区や用排水路の原型となっている。

明治 4 年の廃藩置県により大野藩は大野県となったが、その年のうちに福井県、足羽県とめまぐるしく変わった。県名はその



亀山の頂に建つ越前大野城

後も明治 6 年に敦賀県、明治 9 年に石川県と変遷したが、明治 14 年に再び福井県となり現在に至っている。

足羽県地理誌によると、廃藩置県当時の大野地区は戸数 2,083 戸、人口 9,052 人であった。

明治 22 年の町村制施行により、5 つの



亀山から見た市街地

小区がまとまって大野町が誕生した。大野町は、昭和 29 年の町村合併により大野市の一地区となっている。

## 2 現状と課題

大野地区は 73 の行政区から成り、地理的要件や歴史的背景から大きく 6 つの地区に分かれている。

まちづくりや地域づくりの取り組みは大野地区全体だけでなく、各地区において、それぞれ地域性を反映し進められている。

そのため大野地区全体で、ひとつの共通の目標を掲げ取り組むことについては、難しいのが実情となっている。

### 3 平成30年度の事業内容

平成30年度も昨年と同様に、大野地区各種団体連絡協議会において交付金の活用方法を検討し実践することとなった。

大野地区各種団体連絡協議会構成団体

大野地区区長会、大野地区まちづくり推進協議会、大野地区体育協会、大野長生会、大野地区子ども会育成会連絡協議会、大野地区社会福祉協議会

大野地区各種団体連絡協議会において話し合いを行い、今年度は大野地区区長会、大野地区まちづくり推進協議会、大野長生会が事業に取り組むこととなった。

大野地区区長会については、第1から第6までの地区のうち、第4地区以外の地区からそれぞれの課題解決に活用したいとの声があり、5団体が事業に取り組むこととなった。

#### 【第1地区】

##### 『南っこイルミネーション』

第1地区では、地区内の春日神社で行われる良縁の樹のイルミネーション事業「縁のあかり」に合わせ、有終南小学校の周囲をイル



設置作業



点灯式の様子

ミネーションで飾りにぎわいを創出する事業を行った。

本事業は昨年に引き続き行うもので、昨年度は学校西側の道路に面したフェンスを電飾で飾りつけていた。

今年度はフェンスだけでなく正面玄関前の植え込みまで規模を拡大し、フェンスから一連となって電飾を飾り付けることとした。

玄関前の植え込みの木をクリスマスツリーのように見立てるため、高所作業車を活用して電飾を纏わせるなど、立体的なイルミネーションを作成し、LEDの灯数は全体で1万5千個の規模となった。

今年度は福井国体が開催されたことから、昨年よりも前倒して9月24日から点灯を開始、12月25日までを点灯期間とした。

事業にあたっては、有終南小学校をはじめ各関係団体へと協力を呼びかけ、有終南小学校PTA、区長会、まちづくり委員会が協力し設置作業を行った。

点灯初日に行った点灯式には、近隣より多くの住民が集まったほか、市長、市議会議員を来賓として招き、第1地区の取り組みを広くアピールすることとなった。

この事業を通して住民同士や世代間での交流が図られたほか、今年度は天候に恵まれた

こともあって、点灯期間いっぱいまで地域の  
にぎわい創出に貢献できた。

## 【第2地区】

### 『地域力アップ（向上）事業』



消火訓練

第2地区の多くの単位区において、人口減少、高齢化率の上昇等で地域力が低下している傾向にあることから、第2地区内の地区が集まって情報交換等を行い、それぞれの単位



子供神輿

区の実情の把握等を通じて、地域力アップのため、既存事業から一層の展開を図るべく事業を行った。

地区内で行われてきた子供神輿などの伝統文化の継承や地区民を挙げて行う清掃作業、防災力強化に向けた消火訓練や起振車体験など、課題解決に向けたさまざまな取り組みがなされ、地域力の向上を図った。



清掃作業



起振車体験

## 【第3地区】

### 『「命のポケット」による緊急連絡の迅速化』



命のポケット

第3地区では救急搬送や避難などの緊急時に役立つ情報をまとめた「命のポケット」を各世帯に備える事業を行った。

これは家族や親族などの緊急連絡先、かかりつけの病院や持病、常用薬など、緊急時に



合同説明会

必要となる情報をまとめ、冷蔵庫など目につきやすいところへ磁石等で貼り付けておき、救急搬送時に役立てようというもので、平成29年度に第3地区区長会で黒部市へ研修に行った際に「命のポケット」の取り組みについて学び、第3地区でも同様の取り組みを行おうと進められた。

代表者等が集まる合同説明会を行い、地区の説明会で各世帯へ配布。緊急連絡先や常用薬の種類、保険証の番号など必要な情報をマグネットのついた「ポケット」に入れ、冷蔵庫などの見やすい場所に設置した。



「命のポケット」活用例

【第5地区】

『大野第5地区 世代間交流』

第5地区では、誰もが参加しやすいゲーム

等を通じて世代間交流を図り地域の親睦を深めようと事業を行った。

実施にあたっては、区長会、まちづくり委員、福祉委員、保健推進員、民生委員・児童委員、体育協会、育成会など地区内の各種団体の関係者を集め「地域づくり談話会」を開



地域づくり談話会

催した。この中で地域づくりの大切さなどをあらためて認識し、レクリエーション「わなげ」のつどいを開催することとなった。

まず公式ワナゲのルールや競技方法の分かる人員を確保するため、各種団体の関係者などを集めて講習会を開催。続いて地区内を大きく2つに分けて練習会を開催し、最後に学びの里「めいりん」で「わなげ」のつどいを開催し地区全体で世代間交流を行った。



「わなげ」のつどい

会場に集まった人たちは「思ったよりも難しい」「うまかった」など、口々に感想を話しあい会場全体が和気藹々と楽しい雰囲気でもまれていた。



天空の城を背景に集合写真

#### 【第6地区】

#### 『大野第6地区 交流ハイキング』

第6地区では第6分団体育協会主催で開催しているハイキングを区長会と協力し規模を拡大して行った。

越前大野城のふもとに住んでいながら、天空の城として見る機会のなかなか無い第6地区民を対象に、区長を通じて参加者を広く募集した。

当日、ショッピングセンターVIOの駐車場へ集合し、6分団揃いのビブスを着用。午



撮影スポットに集まる人々

前6時30分に犬山の「天空の城」撮影スポットへ向かい、午前7時ごろには約30名の参加者全員が無事に到着した。

この日は、年に数回しか現れないという貴重な機会に恵まれ、雲海に浮かぶ越前大野城が出現。撮影スポットに詰め掛けていた大勢の人たちと一緒に、貴重な体験を喜び合いました。



草刈作業

#### 【大野地区まちづくり推進協議会】

#### 『亀山東側斜面整備事業』

大野地区まちづくり推進協議会では、亀山東側斜面の整備を行った。

大野地区の花いっぱい運動の一環として花壇を整備するとともに、まちづくりの委員同



花壇の水やり

士の交流の場として行っており、ここ数年は福井国体の開催期間中に来訪者を花でもてなすことなども目的に活動を継続してきた。

5月より草刈等の作業を開始し、6月に花苗を植栽、7月には有志による水やりのボラ



ガザニアの植栽

ンティアを結成し、9月末まで交代で水やりを行い猛暑をしのいだ。

その甲斐あって花は9月の国体が終了するまで十分に咲き続け、市内外からの選手や来訪客に大野地区まちづくり推進協議会としておもてなしの心を示すことが出来た。

また3月には、多年草であるガザニアの植栽を行い、よりいっそう花を楽しめるよう花壇整備を行った。

### 【大野長生会】

#### 『創立60周年記念大会』



記念式典

大野長生会では創立60周年の節目を祝う記念大会を開催した。

大会の開催に向け、昨年度より実行委員会を立ち上げ内容を検討。その中で多くの会員が一堂に会する機会を創るのであれば、今後の活力となるような楽しい内容で開催したいとの意見が出され、記念講演として何か笑えるような催しものを開催し、会員相互のつながりや明日への活力を醸成する機会とすることとなった。

当日は会場の入り口に、実行委員会で趣向を凝らして、大野長生会のこれまでの活動を振り返るパネルを展示した。

パネルの前では、過去の活動を懐かしみながら当時の思い出話に花を咲かせる人が見ら



歩みを振り返るパネル展示

れ、長年にわたる会の歴史をあらためて実感するとともに、先人たちの歩みを振り返っていた。

記念式典では、来賓として、大野市老人クラブ連合会会長、大野市長、県議会議員、市議会議員大野会代表など5名を招いたほか、長年にわたり事務局職員を務め退職された団体職員への感謝状贈呈も行われた。

続いて行われた記念講演では、上方落語の米朝一門より、桂團治郎・桂米紫・桂千朝の3名を招いて落語を披露していただいた。



記念講演

会場に詰め掛けた約200名の会員らが、本場上方の落語に大声で笑い、楽しいひとときを過ごした。

今回、60年の節目となる大会を催したことで、日ごろの活動になかなか参加できていない人たちが集まるよい機会となったほか、久しぶりに顔を合わせ談笑する参加者が多く見られるなど、節目を記念するにふさわしい大会となった。

#### 4 平成30年度の事業成果

昨年度に続き、各種団体連絡協議会で交付金事業に取り組んだことにより、各団体における現況や課題の整理につながった。

大野地区まちづくり推進協議会や大野養生会では、事業に向けた話し合いが、課題の共有や会員間の交流につながり、組織の活性化と地域活動を担う人材の掘り起こしを図ることとなった。

区長会においては第1～第6地区のうち5団体が、それぞれの地区内の現状や課題などの情報を共有し、身近なところから地域づくりを考え実践する機会となり、地域課題解決に向けた取組みとなった。

特に複数の行政区がまとまって事業を行った地区では、会議や作業等の機会にお互いの

課題の共有や情報交換が行われ、結果それぞれの地区における活動内容の拡充が図られるなどの相乗効果が見られた。

#### 5 今後の展望

今年度の活動については、以前から内容を計画していた団体や昨年度の取り組みを拡大した団体、そして新たな内容へ取り組んだ団体などさまざまであった。

各団体において解決に向け取り組みたいと考えている課題の内容については、それぞれが異なり、共同で取り組むような手法を導入することはなかなか難しい状況である。

しかしながら、今後、各種団体連絡協議会や区長会等において検討を進める中で、複数の団体で協力して取り組んだほうが効果的であると考えられる場合があれば、互いに連携を取り進めるなど、本事業の更なる活用方法を検討しながら、地域の課題解決へとつなげていきたい。

